

小学校で授業をしました

院長

今回は新聞の発行が少し遅れましたが、ちょっとした理由があるのです。実は、校医をしている小学校で、授業をしてきました。4年生の保健の授業で、テーマ(教科書の記載)は「育ちゆく体とわたし」で、1.大きくなってきた私の体(身長や体重が中心)、2.すくすく育てわたしの体(栄養、運動、睡眠が中心)、3.おとなに近づく体(二次性徴：主に外見)、4.からだの中でも始まっている変化(男女の性器、初経、精通、異性、新しい命等)です。これを4時間の授業として、院長が4.からだの中でも始まっている変化を担当することになりました。実は授業にもいくつかの形があるのですが、校医が行なうのはもっぱら外部講師による授業です。この場合は、教科書に内容にそれほど規定されないで、比較的自由に話が出来るものです。もちろん外部講師を含めて、授業は全く初めての経験です。

初めに4年生の保健の教科書を示された時は、正直驚きました。自分としては、授業で初経や精通等聞いた覚えがありません。もちろん遠い昔の話(45年以上前)なので、おぼえているはずありません。家内に訪ねると、確か中学生の頃女子だけを集めてそんな話を聞いた覚えがある程度です。これを読んでいるお父さんやお母さんはどうでしたか？

教科書の内容に少し詳しく触れてみますので、皆さんの場合と比べてみてください。3.おとなに近づく体では、「腋の下に毛が生える」、「胸がふくらむ」、「性器の周りに毛が生える」などを大人と子どもの男女のイラストが示してあります。こんなことも4年生で教えるのと、戸惑いました。4.体の中で始まっている変化では、女の子にはどんな変化が起るの?と題して、生理の仕組みがイラストと文章で説明されています。男の子にはどんな変化が起るの?では、射精に関してイラストと文章で説明されています。他に体の変化はどうして起るの?として、ホルモンの働きが、新しい命として胎児のイラストと赤ちゃんの写真が示されています。そして最後に思春期と異性について触れ、個人差ということで「自分らしさ」を大切にという結論で終わっています。

10月のお知らせ

- ・医学部学生実習
10月19日(金)
よろしくお願ひします。
- ・栄養育児相談
毎週水曜日 13:30～
栄養士担当 無料



今回の授業は、担任とのコラボレーションでチーム・ティーチング(T.T.)と呼ばれるものです。あくまでも授業の一環として教科書に準じなければならぬものです。一週間前に担任が打ち合わせにやって来ました。担任としても難しい單元ということもあり、子どもに不必要な刺激を与えないという意識を強く持っていました。また、研究授業で他の教職員の参観もあり、ずいぶんプレッシャーを感じていたようです。本当に子ども達のことを思うまじめな先生でしたので、ああして欲しい、受精という言葉は使わないで等、多くを要望されました。なかなかすり合わせがうまくいかず、性格が悪い自分は話の途中で授業をおりるとまで言ってしまいました。1時間以上の話し合いのなかで、お互い立場を十分理解することができました。最終的には子ども達のためということで二人協力して授業に望むことになり、自分は10分で初経と精通を説明することになりました。初めての経験でしたが、授業前から本当に難しく感じてしまいました。

担任にはこちらの希望を無理強いた手前もあり、また校医が侮られては困るという思いから、学会以上に気を使い準備に取りかかりました。土日は資料作成のために時間を費やし、1歩も外に出る余裕もありませんでした。他の仕事をおろそかにする不安のなか連日深夜まで取り組み、10枚以上の写真を使って何とか25枚のスライドに仕上げました。スライドが多くなり過ぎたので、希望を伝え授業を延長してもらい、30分程の時間を頂くことが出来ました。

当日は子ども達と一緒に、給食を食べて雑談したあと、授業が始まりました。「赤ちゃんはどこから来るの」というテーマで、命の大切さに触れ、みなに支えられて育っていること、そして大人の準備が始まること、始まり方はみな違うことなどを説明し、570gの赤ちゃんの成長や学生実習の赤ちゃん抱っこの写真等も見せながらの授業でした。子ども達は熱心に聴き、反応もよい感じでした。校長始め教職員、PTA(3人)に見つめられ、学会発表以上に緊張した時間でした。授業のあとの校長との話で、よかったとの評価(お世辞?)を得て気が楽になって帰ることができました。子ども達の感想をもらう予定です。さて、どんな感想になるか期待と不安とでいっぱいです。

事前に何冊かの本を参考にしましたが、お母さん方にもすすみたい本があったので二面で紹介します。今回の授業の組立に役立つだけでなく、育児にも役立つ本です。是非読んでみてください。(初版の記事の一部を変更しました)



読者の広場

先月は19通のメールを頂きました。医療相談のメールが多いのですが、い



くつか紹介します。最初は一面記事の授業に関するもので、泉区の千葉さんから頂きました。「今日はお世話様でした。あの後たいとは2回程うんこができました。おかげさまですっきりしたようです。ありがとうございました。4年生のTTの授業ですが、うちの学校では学級活動の時間を利用してTTで体の勉強(性教育)をしています。4年生では「命の誕生」と「男の体の変化」という題材名で2時間の授業をしています。「命の誕生」では養教からは受精のしくみや胎児の成長の様子、赤ちゃんの誕生について話をします。担任からは自分が生まれてくるまでの様子や家族の思いについて考えさせたり自他の命の大切さについて考えさせたりしています。「男の体の変化」では担任が自分のこれまでの成長について振り返らせながら成長の個人差に気付かせてからこれからの成長(二次性徴)について養教から説明をします。保健の授業としてではないのでどのくらいお役に立てるかは?ですが…少しでも川村先生のヒントになったら嬉しいです。メールで不明な点が多いようでしたら指導案、略案ですがありますので言ってください。育休中で頭がとろけていますが、久しぶりにちょこっと仕事した気分です(^o^)/。千葉さんは養護教諭をしています。とても役立ち、こんな形でも患者さんに助けられているのを改めて感じることができました。ありがとうございました。続いては宮城野区の板橋さんからです。「今日はお世話様でした。久しぶりだったからご機嫌がかなり斜めに親も驚きました(・・?けどかわむら先生が来た途端落ち着いていた様子でした。これはほんと話なのですが毎日1日一回はかわむら先生と口ずさむ暇です。それは決まってクリニックに行く道を見て言います。わかるんだな～と思い凜空と同じでかわむら先生大好きみたいです。これからもお世話になります。あと凜々花は熱もさがり発疹もなくなってきました(o^-)b)。毎日先生の名前を口ずさむ?患者さんの鏡(笑)ですね?。もうひとつあめをのどにつまらせた青葉区の今野さんのメールです。「先生、こんばんは。今日、健診前に診てもらいました今野 叶翔です。診察外の時間に本当にありがとうございました。病院についた頃には本人もすっかり落ち着いて連れていった私が何だか恥ずかしいやら申し訳ないやらで…。何度聞いても喉に詰まっていると言うし家では引っこ返して手を入れて背中を叩いて、本人も怖い痛いとお泣きだしその光景に兄も妹も泣きだし、どうしたらよいかわからなくオロオロするばかりでした。咄嗟に先生に電話!先生のところへ!しか頭に浮かばずに駆け込み状態ですいませんでした。診察を受け、本人の先生との会話での笑顔で私も安心しました。先生の不存にさせない子供への対応、そして母親の私も不存がなくなります。ありがとうございました。子供たちとあめは止めようね、と約束した私です。何か月か前も長々とメールをしてしまい、今回も長々と…すいません。お礼を言いたくてメールしました。ありがとうございました。追伸:先生に診察のとき、何だかもう大丈夫みたいで…すいません。と言ったら、何ともなくてよかったんだよ、との優しい答えにホッとしました私でした。」。小さいお子さんにはあめは厳禁ですよ。メールは何でも、いつでも御遠慮なく。

お母さんクラブの御案内

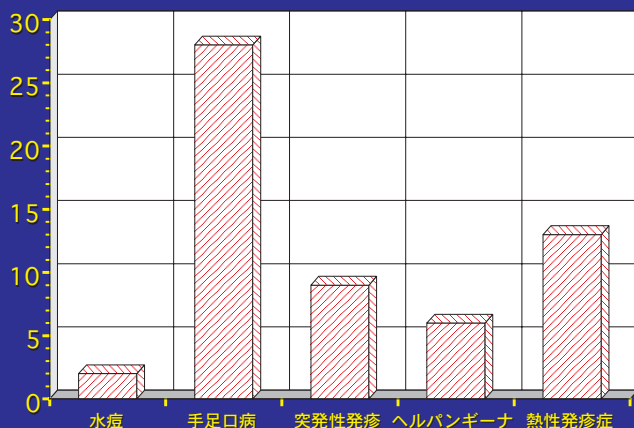
消費者被害の防止!! 消費生活センター

10月25日(木) 14:00～ 福沢市民センター

マスコミでも報道されるように、様々な手口の詐欺まがいの商法が横行し、多くの人たちが被害にあっています。今回は仙台市消費生活センターのご協力を頂き、子育て中のお母さん達をターゲットにした事例についてお話を頂くことになりました。具体的な事例ををあげ、その対策を考えてみましょう。会員以外の参加も可能です。参加希望の方は受付まで。

予防接種 インフルエンザワクチンの予約が始まりました。接種は10月下旬。13歳以上は原則1回、13歳未満は2回接種です。
お知らせ 料金(1回) 3150円(消費税込)

9月の感染症の集計



授業の参考になった本

「いのちはどこからきたの?」(大葉ナナコ:情報センター出版局)、「女の子・男の子からだBOOK」(メグ・ヒックリング:築地書館)です。特に「いのちはどこからきたの?」はバースコーディネーターと母親の立場から書かれたもので、いつ頃からどのように子どもに性の話をしたらよいか、食育と性の乱れについても触れてあります。

手足口病がかなり流行しています。多少発熱することがありますが、ほとんどは手足の発疹と口の中の水疱です。口内疹が痛みを伴いますが、他に症状はほとんど無く、特別な治療法もありません。水痘も少なく、おたふく、溶連菌感染症は、みられません。グラフにはありませんが、季節の変わり目で気管支炎や喘息の悪化がみられます。

編集後記

何度も書きますが、ほんと授業は大変でした。どの程度知識があるのかわからなかったのが一番でしょうか。一生で初めて聞いた授業でしようから、命の大切さと共に、よい印象が残ってくれることを期待しています。感想が集まったら、可能な限り紹介したいと思っています。



院長著書「小児科医がやさしく教える 赤ちゃん子どもの病気」の再版にご協力を。
詳しくは かわむらこどもクリニックHP(<http://www.kodomo-clinic.or.jp>)を